【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第３区分
【発行日】平成17年7月14日(2005.7.14)

【公開番号】特開2000-36067(P2000-36067A)
【公開日】平成12年2月2日(2000.2.2)
【出願番号】特願平10-234836
【国際特許分類第７版】
　Ｇ０７Ｄ　5/08
【ＦＩ】
　Ｇ０７Ｄ　5/08　１０３

【手続補正書】
【提出日】平成16年11月17日(2004.11.17)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
投入されたコインを電子的に検出してデータを得るための手段と、投入されるコイン形のキーに関するキーデータを記憶するための手段と、投入されたコインのデータと前記キーデータとを比較して当該コインがキーコインであるか否かを判断するための手段と、を備えていることを特徴とした電子コインセレクタ。
【請求項２】
請求項１の記載において、前記記憶手段に予め前記キーデータが記憶されていることを特徴とした電子コインセレクタ。
【請求項３】
請求項２の記載において、投入される真正コインに関するコインデータを記憶するための手段と、投入されたコインがキーコインであると判断されると当該コインデータを変更可能にするための手段と、を備えていることを特徴とした電子コインセレクタ。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００４】
【課題を解決するための手段】本発明は、投入されたコインを電子的に検出してデータを得るための手段と、投入されるコイン形のキーに関するキーデータを記憶するための手段と、投入されたコインのデータと前記キーデータとを比較して当該コインがキーコインであるか否かを判断するための手段と、を備えていることを特徴とした電子コインセレクタである。また本発明は、前記記憶手段に予め前記キーデータが記憶されていることを特徴とした電子コインセレクタである。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１９】

上述のことは１００円硬貨が投入口１１に連続的に投入されて合計枚数が所定枚数Ｎに達するまで繰り返される（ステップ５７からステップ５４）。所定枚数Ｎにまで達すると信号処理ユニット３５によって１００円硬貨のコインデータ４２が統計的に処理される（ステップ５８）。そして当該コインデータ４２がメモリ３６に記憶される（ステップ５９）。上記の準備のあと当該電子コインセレクタ２０はモード変更スイッチＭＳの選別機モードが選択されて使用される。

【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２２】

図６は図５の動作を説明するためのフロー図である。なお図４に示されるセレクタは図１のセレクタとほぼ同様であるため同じ部分には同じ参照符号を使用することにする。ここで先ずコインがセレクタ２０に投入されたときの動作を簡単に説明する。投入口１１から入れられたコインＣはセレクタ２０内部に形成された垂直な通路（図示略）を自然落下する。この自然落下するコインＣはセレクタ２０の上部内に配置された三個のコイル２１、２２、２３（図５を参照）によって検出される。

【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３０】

この比較の結果、コイン形キーが真正であると判断されるとデータ作成モードが遂行できることになる（ステップ７０）。すなわち５０円硬貨が投入口１１に投入されると投入された５０円硬貨がカウントされると共に５０円硬貨のサンプリング・データが得られる。このことは５０円硬貨が投入口１１に連続的に投入されて合計枚数が所定枚数に達するまで繰り返される（ステップ５７）。所定枚数にまで達すると信号処理ユニット３５によって５０円硬貨のコインデータ４２が統計的に処理される（ステップ５８）。